

森本 敏 (もりもと さとし)

安全保障スペシャリスト

拓殖大学総長、元防衛大臣



【プロフィール】

昭和16年生まれ。防衛大学校理工学部卒業後、防衛庁入省。昭和52年に外務省アメリカ局安全保障課に出向。昭和54年外務省入省。在米日本国大使館一等書記官、情報調査局安全保障政策室長など一貫して安全保障の実務を担当。専門は安全保障、軍備管理、防衛問題、国際政治。平成4年より野村総合研究所主席研究員(～平成13年3月)。平成7年より慶應義塾大学特別招聘教授・兼任講師、同大学院兼任講師(～平成13年3月)。平成9年より中央大学・同大学院客員教授(～平成13年3月)。平成12年より政策研究大学院大学(～平成15年)と聖心女子大学(～平成23年3月)で非常勤講師兼任。平成12年より拓殖大学国際学部教授(～平成19年3月)、平成17年より同大学海外事情研究所所長(～平成24年6月)、平成25年より同大学特任教授(現職)。平成21年8月防衛大臣補佐官(～同年9月)。平成24年6月第11代防衛大臣に就任(～同年12月)。平成27年10月防衛大臣政策参与に就任。平成28年3月拓殖大学総長に就任。

【主要著書】

- 「防衛装備庁―防衛産業とその将来―」(編著、海竜社、平成27年12月)
- 「エネルギーと新国際秩序」(共著、エネルギーフォーラム、平成26年11月)
- 「私の死生観」(共著、角川ONEテーマ21、平成26年10月)
- 「武器輸出三原則はどうして見直されたのか」(編著、海竜社、平成26年3月)
- 「オスプレイの謎。その真実」(単著、海竜社、平成25年8月)
- 「国防軍とは何か」(共著、幻冬舎ルネッサンス新書、平成25年6月)
- 「それでも日本は原発を止められない」(共著、産経新聞出版、平成23年10月)
- 「日本の瀬戸際―東アジア最大の危機に日本は生き残れるか」(単著、実業之日本社、平成23年2月)
- 「普天間の謎―基地返還問題迷走15年の総て」(単著、海竜社、平成22年7月)
- 「日本防衛再考論―自分の国を守るということ」(単著、海竜社、平成20年5月)
- 「岐路に立つ日本の安全―安全保障・危機管理政策の実際と展望―」(監修、北星堂、平成20年1月)
- 「国民として知っておきたい日本の安全保障問題」(編著、海竜社、平成19年12月)
- 「日米同盟の危機―日本は孤立を回避できるか―」(共著、ビジネス社、平成19年4月)
- 「国防の論点」(共著、PHP研究所、平成19年3月)
- 「米軍再編と在日米軍」(単著、文藝春秋社、平成18年9月)
- 「森本敏の眼―日本の防衛と安全保障政策」(単著、グラフ社、平成17年3月)
- 「有事法制」(共著、PHP研究所、平成15年1月)

【主要論文】

- 「安全保障法制と集団的自衛権問題」(防衛法研究、平成27年4月臨時増刊号)
- 「日米同盟の現状と将来―転機と機会―」(海外事情、平成26年7・8月号)
- 「東日本大震災と国家の危機管理―課題と問題点」(海外事情、平成23年7・8月号)
- 「機動的運用主眼の『動的防衛力』へ―新防衛大綱と日本の安全保障」(改革者、平成23年2月号)
- 「日米同盟の深化と課題」(海外事情、平成23年1月号)
- 「東アジアの安全保障と日米同盟」(海外事情「報告」、平成23年)